

Home

～長洲町に生まれて～

この町で生まれ、この町で育ち、そして今、故郷・長洲町を想う…。このコーナーでは、様々な分野の第一線で活躍する長洲町出身の人を紹介しします。

日本テレビで長年、政治記者として故大平正芳氏、中曽根康弘氏など歴代内閣総理大臣を取材し、サミットにも同行するなど、世界を股に掛けて活躍。昭和天皇崩御と新たな元号「平成」が発表された歴史的瞬間を全国に届けた。
現在は、「熊本県民テレビ」の社長として活躍する、松原区出身の松本正樹さんをご紹介します。

政治記者として奔走する日々

「親戚に政治家が多く、政治はとても身近にありました。新聞もよく読んでいましたね。政治記者を志望したのも、この頃だったかもしれない」。生まれ育った環境から、政治に関心があった少年時代。

大学卒業後、日本テレビに入社。念願の政治記者に。

『夜討ち朝駆け』と言われる記者生活を20年ほど続けた。「周りの人から見ると大変そうに見えるかもしれないけれど、好きな仕事だったから、苦勞もいとわなかったですね」。政治家や歴代総理大臣を追

いかけ東奔西走した日々。取材をする時は常に、「相手に対して誠意を持つこと」を心掛けて臨んだ。

最初についた首相は、故・大平正芳元首相。就任直後に行われた日米首脳会談には、政府特別機で一路ワシントンへ。カーター大統領（当時）による歓迎式典が開催されると「ホワイトハウスで取材をしているんだなあと、つくづく感じました」。

テレビ中継にも数多く出演。政治の「今」を伝えた時に「若干熊本なまりが出て、『日本テレビはローカル番組を作るようになった』なんて冗談を言われていましたよ」と笑う。

中でも、忘れられない取材となったのが「首相官邸キャップを務めていた時、昭和天皇が崩御。故・小淵官房長官が、新元号を『平成』と発表した歴史的瞬間を、首相官邸から全国に中継したこと」。時代は昭和から平成に。新たな時代の幕開けだった。

「歴史が動く瞬間に自分がいる、という実感を強く感じました。一番印象深い取材でした」と振り返る。

報道局長だった04年。小泉

純一郎元首相が訪朝を前に、北朝鮮へのコメ支援を日テレ記者がスクープした。この報道に激怒した首相官邸と口論に。「真実を伝えることが私たちの使命。報道の自由を守るために、権力とも戦わなければいけないときもあるんです」と力を込める。

第2の人生 故郷熊本へ

4年前、熊本県民テレビの専務取締役になった。昨年6月、代表取締役社長に就任した。ハードな仕事だけに「健康で明るい職場作りはかせない」と社員を気遣う。

18年間を過ごした長洲町。「貝ほりをしたり、泳いだりよく海に行っていましたね。梅田の林では、よくメジロを捕まえて家で飼っていました。一番楽しかった頃かな」と当時を懐かしむ。「（昔と比べて）今は道路はきれいになったけれど、町の中にぎわいがなく寂しい」。その一方で「文化的な生活を送るために欠かせない下水道は、金魚と同じく町の財産。この財産を活用して、活力のある町が取り戻せたらいいですね」。愛する故郷を見つめる目は、どこまでも温かだ。



熊本県民テレビ
代表取締役社長

松本 正樹さん
Matumoto Masaki

PROFILE 1942年8月10日生まれ。松原区出身。長洲小、長洲中、県立玉名高校、早稲田大学卒業後、67年日本テレビ放送網株式会社入社。報道局に配属になる。91年報道局経済部長、96年秘書室秘書部長、99年社長室長、2000年執行役員秘書室長、03年上席執行役員報道局長、07年熊本県民テレビ専務取締役を経て、10年6月代表取締役社長に就任。現在に至る。趣味は旅行、カメラ。モットーは「しっかりとゆっくり」と。熊本市在住。69歳。